

種名	<u>ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ</u> <u>Carassius cuvieri</u> 
分類	コイ目コイ科コイ亜科フナ属
形態的な特徴	大高が高く、鰓耙の数が著しく多くふつう 100 本以上もある点で、フナ属のほかの種類と容易に区別できる。背びれ条数は1棘 5 軟条、背びれ基底の長さはやや長く、体長はその2.68 倍、体高の 2.6 倍、全長 40 cm、特に大きいものでは 50 cmに達するものもある。
分布	琵琶湖原産である。近年、全国各地の湖沼へ移殖放流され、各地で自然繁殖しており、どこにでも見られるようになった。ダム湖に放流された場合にはそれらの川の下流域で自然繁殖している例もある。また、在来のおオキナブナとの交雑個体が発見されたこともある。
繁殖行動	4～6 月の雨で増水したときに、水草や浮遊物に産卵する。受精卵は直径 1.4 mmで粘性がある。受精後水温 20 で 4～5 日で孵化する。成長は速く、3 年で 25 cmあまりになり、5～6 年で 40 cmを超える。
生息場所	湖や池沼などに生息し、浮遊動物の多い中層に群れをつくって遊泳しながら餌をとる。川でも下流の淀みに若齢魚が生息することがある。
食性	プランクトン植物食性で、餌となる微小な生物をえらの内側にある鰓耙でこし集める。このため、本種の鰓耙はフナ類のなかで最も長く数も多く、微細な餌を食うのに良く適応している。
生息環境への配慮事項	
引用文献：改訂版 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚を改変	